

鮮やかな想いで、明日を彩れ。

NiT 日光活性化プロジェクト

代表 谷田 開 さん・副代表 小松 乙女 さん

小松：「NiT」というのは、「Nikko illuminate Tomorrow」＝「日光の明日を明るく彩る・包み込む」という意味です。ニットの服のように若者と人生の先輩とが絡み合い、日光を温かく包み込みたいという思いで名付けました。

「NiT」という名前の意味は？

谷田：大学に進学し日光を離れ、ゴールデンウィークに帰省した際に、改めて日光の良さを実感しました。そして日光の良さをみんなに発信したい、自慢したいと思うようになりました。しかし、同時に「若者が少ない」という日光の問題も見えてきました。そこで、若者が活躍できる場を日光に作り、盛り上げていこうと、中学校の同級生だった小松さんをはじめとした友人たちと令和2年7月に集まったことが始まりです。

NiT設立のきっかけは？

学 生を中心に、日光を盛り上げた活動と活動する市民団体「NiT」(ニット)。令和3年11月に開催した「ゼロからマルシェ」の企画にも参加した同団体の代表谷田さんと副代表小松さんにお話を伺いました。

どのような活動をしていますか？

小松：現在、中学・高校の友人や、SNSなどで集まった市出身・ゆかりのあるメンバー10名で活動しています。

これまで、日光市内の企業と名産品を使った商品開発や、ゼロからマルシェをはじめとしたイベントの企画・運営などを行ってきました。また「日光ミーツイング」というインターネットを使ったオンライン交流イベントを継続して行っています。

谷田：1月8日には新成人向けのイベントとして「巨人生ゲーム」を市内で開催します。ゲームを通して新成人の皆さんに日光の良さを再認識してもらい、進学などで日光を離れた方にも「将来は日光に戻る」という選択肢を入れてもらえればと思っています。

活動の中で感じたこと、苦労したことは？

小松：コロナ禍だからこそ、オンラインツールを活用しようと、週1回のオンラインミーティングは欠かさず行っています。とにかく続けなければかしら生まれると思うのですが、実際に日光に集まり何か行おうとすると、県外在住のメンバーも多く、実施まで時間がかかってしまうことが多いです。

谷田：皆さんに活動の理解をいただ

今後の活動は？

くのも大切ですね。自分たちの意見を押し通すのではなく、人生の先輩方に意見をいただき、より良いことを一緒にできればと意識しています。

谷田：市内の古民家を会場に、日光の食文化やフードロス問題を学ぶイベントなどをやりたいと模索中です。私たちの活動が前例になり、日光に戻り、日光で仕事や夢に挑戦する若者が増えたらいいなと思っています。そのためにも一緒に活動する仲間を大募集しています！

インタビューを終えて

小松さんは市内在住で東京の大学に通学しており、県外在住の谷田さんも「卒業後は日光に戻る選択肢以外はない」とのことです。NiTの皆さんの強い日光愛を感じ、我々も日光愛を持って日々業務に取り組まねばと、身の引き締まる思いでした。



NiTのロゴが入ったトレーナーで取材に応じた小松さん(左)と谷田さん(右)

